



■特集

これからの社会に適した より質の高いケアへ

—スペシャリストによる—
Support team Heartful

インタビュー 救急救命士のお仕事

大阪病院学会報告
グループ主催研修報告トピックス はあとふる学会
新病院開設に向けての進捗

はあとふるカフェ

第24回はあとふる学会の
シンボルマーク

旧年中は、いろいろお世話になり、誠にありがとうございました。

はあとふるグループが覚悟を決めて取りかかった島田病院の新築工事は、第1期竣工の5月に向け順調に進んでおります。新病院では、予約の取りにくかった外来リハビリテーションも拡充され、効率が改善すると期待しています。手術についても、手術室が5室になり、お待たせせず対応できるでしょう。整形外科では不可欠の検査であるMRIやCTは最先端の機種を設置し、正確な診断に威力を発揮するものと思っています。トイレやシャワーなどアメニティーについてご指摘を受けていましたが、快適な環境になります。増床するリハビリテーションなどの急性期後のケアを行う45床をうまく活用し、安心してご自宅での生活に戻っていただけるよう、ケアの連続性を意識して参ります。

一方、八尾では「八尾はあとふる病院」はますますリハビリテーションに特化し、同時に在宅での生活を支援するために通所介護の事業所を新たに開設する準備を進めています。

より質の高いヘルスケアを提供する環境は整いつつありますが、その環境に見合ったヘルスケアサービスを提供できるよう、「人」の育成にも注力し、患者さん、ご家族のニーズと向き合っています。

医療法改正や地域医療構想など、医療界にとって厳しい環境が続きます。しかし、私たちはリハビリテーション機能を軸として急性期・回復期・生活期そして在宅と、それぞれ違う機能を持っています。必要な時にタイミング良く必要なサービスやケアが提供されるよう、組織内のつながりを強化して参ります。地域で異なる組織同士の連携を国は計画していますが、一足飛びには参りません。まずは組織内で、良質のサービスやケアをうまくつなぎ、理念であります「その人らしい人生が全うできる」ようサポートを行って参りたいと思っています。

本年もなおいっそうのご指導とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



理事長 島田永和

これからの社会に適したより質の高いケアへ —スペシャリストによる *Support team Heartful*

我が国は65歳以上人口の増加や少子化や社会保障費など様々な問題を抱えており、それらの社会問題に対してヘルスケアサービスも柔軟に対応していかなければなりません。社会やニーズの変化に柔軟に対応していくためには「学習する組織」としての活動は必要不可欠です。はあとふるグループの使命は「私たちは、良質のヘルスケアサービスを効率よく地域の方々に提供し続けます」です。この使命に少しでも近づくための能力を、自分たちで高めていける集団(チーム)としての活動をしています。

はあとふるグループが提供するヘルスケアサービスは、医師、看護師、理学療法士、介護福祉士など様々な専門スタッフがチームで提供しています。それぞれの資格だけでも専門職と言えますが、その中でもさらに専門分野を特化させた認定資格や専門資格もあり、スタッフが主体性をもってそれらに取り組んでいます。専門職がさらに専門性を高めることは、良質のヘルスケアサービスにリンクしており、はあとふるグループとしても学習に対する支援を行っています。今回は、看護師、介護福祉士で専門分野に特化したスタッフを紹介しながら、その資格についてもご紹介します。

■認定看護師とは

日本看護協会が策定した資格認定制度の資格の一つで、1997年から開始されています。現在では21分野あり、全分野では約16000人の認定看護師が全国で活動しています。また、これらを実践した内容とその成果を5年毎に報告し審査を受ける更新制度です。認定看護師は特定の看護分野において、以下の3つの役割を果たします。

- 1.個人、家族及び集団に対して、熟練した看護技術を用いて水準の高い看護を実践する。(実践)
- 2.看護実践を通して看護職に対し指導を行う。(指導)
- 3.看護職に対しコンサルテーションを行う。(相談)



島田病院 クオリティマネジメントセンター

感染管理認定看護師／森下 幸子

私は、感染管理認定看護師を取得しています。そして、島田病院の術後患者や八尾はあとふる病院など院内の感染管理だけでなく、法人内の介護施設で感染管理をしています。現在は、厚生労働省が推進している特定行為研修を受講しています。この研修を修了した看護師は、特定された行為について、医師の指示を待たずに一定の診療の補助ができるようになります。特定された行為は38行為ですが、私が習得する行為は、「感染徴候時の薬剤の臨時投与」と「栄養および水分に係る薬剤投与関連」の2行為です。これら習得することで、院内感染対策だけでなく法人全体の

感染症治療にも介入できるよう役割を拡大したいと思っています。

この研修制度は、団塊の世代が75歳以上となる2025年問題に向けた対策のひとつとして、今後の在宅医療を支えることを目的としています。(詳細は、下記の厚生労働省ホームページにてご確認ください)

※厚生労働省ホームページ:<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000077077.html>



介護老人保健施設 悠々亭 看護部

皮膚・排泄ケア認定看護師／田中 千恵

私は、皮膚・排泄ケア分野を1999年に取得しました。皮膚・排泄ケア分野は、「WOC」と言われています。創傷=Wound オストミー(ストーマケア)=Ostomy 失禁ケア=Contineceの頭文字をとった略で、「スキんケア」を主として行う分野です。

私は主に創傷ケアとストーマケアを行っています。介護老人保健施設悠々亭には、入院中や在宅で褥瘡が発生した方や、ストーマケアに難渋されている方が入所されることがあり、その方々のケアを行っています。しかし、褥瘡は一度治療しても再発するリスクもあり、全身の管理が重要となってきます。そのために、悠々亭のスタッフ全員で、再発防止や褥瘡予防を行っています。今後は、悠々亭だけでなく、地域の方々とも交流をもち、地域での活動も広げていきたいと思い、訪問看護ステーション兼務となり、在宅のスキんケアの活動も始めました。

■専門看護師とは

専門看護師には、がん看護や精神看護など11の専門分野があります。複雑で解決困難な看護問題を持つ個人、家族及び集団に対して水準の高い看護ケアを効率よく提供することとされています。専門看護師には、以下の役割があります。

- 1.個人、家族および集団に対して卓越した看護を実践する(実践)
- 2.看護者を含むケア提供者に対しコンサルテーションを行う(相談)
- 3.必要なケアが円滑に行われるために、保健医療福祉に携わる人々間のコーディネーションを行う(調整)
- 4.個人、家族及び集団の権利を守るために倫理的な問題や葛藤の解決をはかる(倫理調整)
- 5.看護者に対しケアを向上させるため教育的役割を果たす(教育)
- 6.専門知識及び技術の向上並びに開発をはかるために実践の場における研究活動を行う(研究)



訪問看護ステーション ハートパークはびきの

慢性疾患専門看護師／山本 弥生

私は《専門看護師》という資格を取得しています。今回は専門性を活かした取り組みとして、上記6つの役割のうち、(実践)役割について紹介します。私の専門分野は慢性疾患看護です。慢性疾患の定義は「治療が困難な慢性の経過をたどる疾患」とされ、ケアの焦点は“治療(cure)”ではなく“病気とともに生きること(living with illness)”にあります。疾患をもちながらも、その人がその人らしく、ご自宅で安心して生活できるよう、私はリンパドレナージュやアロマセラピーといった補完代替療法を訪問看護ステーションのケアに取り入れています。

例えば、下肢に浮腫のあるご利用者にリンパドレナージュをおこなうと、浮腫の軽減や、痛み・しびれを緩和することができ、転倒予防やリハビリの促進にもつながります。また、そのような身体面だけでなく、優しく触れることでのタッチング効果や、1対1で向き合い、ゆっくりと話を聞くことでの精神面のケアもおこなえます。専門看護師としてはまだまだ未熟ですが、これからも、ご利用者だけでなく、そのご家族も含めた健康増進、療養支援を目指して頑張ります。

■認知症介護指導者とは

全国の老人福祉施設や在宅サービスの現場等にその成果を普及させることを目的とした、認知症介護の専門職員です。平成13年度より認知症介護研究・研修センターで研修が行われています。



介護老人保健施設 悠々亭 介護部

認知症介護指導者／介護福祉士 伊藤 琢二

私は平成16年に認知症介護指導者養成研修を受講、修了し「認知症介護指導者」となりました。認知症介護の専門職員として、大阪府認知症介護実践者研修に、講師・ファシリテーターで活動しています。

現場でケアを行っている時、認知症の方は不安を持って生活されていることがわかります。自分自身が実践している事は、まず「聴く」ことです。徘徊などの行動心理症状ばかりに目を向けるのではなく、その方の行動の意味を知る為に「聴く」ことから始めてみませんか？ 認知症の方は何もわからなくなったわけではありません。プライドや感情は豊かに残っています。これからもご利用者の方々に尊重したケアが提供できるように頑張りたいと思います。

認知症介護指導者は、介護専門職に対する人材育成だけでなく、地域の指導者としての役割も担っています。個別の相談や講習会など、ご要望がございましたら気軽に声を掛けて下さい。

今回紹介したスタッフ以外にも様々な資格を持つスタッフが、はあとふるグループのヘルスケアサービスの質向上に貢献しています。八尾はあとふる病院と島田病院には、大学院協議会のプライマリケアのコースを終了したスタッフとあと1年学習を継続するスタッフがいます。今後、どのような資格でどのように活躍できるか、まだ制度が確定していないところです。

はあとふるグループの使命は、「私たちは、良質のヘルスケアサービスを効率よく地域の方々に提供し続けます」です。この使命は、私たちが目指すべき長期目標であって、まだまだ道半ばです。はあとふるグループで専門性を磨いたスタッフ達がどんどん活躍の場を広げていくことによって、一歩でも目標達成に近づけていきたいと考えています。

今後も広報誌『はあとふる』で、主体的に専門分野に取り組むスタッフをご紹介しますので、ご期待ください。



救急救命士／福井 昂巴さん

救急救命士(以下救命士)とは「医師の指示のもとに救急救命処置(気管挿管や静脈路確保を含む)を行う事を生業とする者」と定められています。私は、医療現場の最前線で知識と体力を使って1人でも多くの人の命を救いたいと思って救命士になりましたが、この生業を実践するためには地方公務員試験を受験し、消防官として働くしか資格を生かす道がなく、たとえ救命士の国家資格を持っていても、すぐには救急業務に就けるものではないのが現状です。

このような状況の中でも、消防官として働くのではなく、病院こそが自身の活躍の場であると考えて病院に就職する救命士が増えてきています。その原因は、患者さんと触れ合いたい、医療現場で救命士の資格を生かして働きたいという強い思いをもった救命士の数が多いからで、私もそのひとりです。

救急救命処置を行うという仕事のみが本来の救命士の役割であると限定したなら、就職する場は救命センターや救急告示病院に限られます。そうなると益々活躍する場は限定されてしまいます。救命士の国家資格取得までの教育課程を見ても、活動の場が救命処置のみに特化する必要はないことを分かっていたかと思えます。(別記①) そのことに気づけたので、私も活動する場所を限定せず、島田病院で勤務することになりました。

また、救命士が活動する現場としては救急救命士法で規定されており、救命処置を実践するのは「救急車内及びその現場」であると限られています。そのために最近まで救命士の病院内業務は看護助手としての業務しか与えられていませんでした。しかし、最近では病院内救命士の重要性が認識され「異常の早期発見」「外来トリアージ」「急変者の初期対応」「急変者対応に関する院内教育」などさまざまな役割を果たすことのできる職種であると見直され始めています。実際に、私が外来で業務についている時でも、患者さんとの何気ない会話やその他の接する機会の中で、実践するよう心がけています。

島田病院は、整形外科の専門病院なので、救急救命士と言うと少し違和感があると思う方もいるかもしれませんが、外来で来られた患者さんや、手術、隣接する介護老人保健施設、ゆうゆうハウスなど、いつでもどこでも救急救命が必要な患者さんが発生する可能性は否定できません。救急救命士の活動は施設内だけにとどまらず、災害発生などの有事が発生した場合にも有効だと思います。島田病院内に急変・搬送のスペシャリストがいることを知っておいてもらえれば、患者さんはもとより看護師やその他の職員の安心につながると考えているので、そんな存在になれるようがんばっていきます!

別記①

基礎分野	<ul style="list-style-type: none"> 科学的思考の基盤 人間と人間生活
専門基礎分野	<ul style="list-style-type: none"> 人体の構造と機能 疾患の成り立ちと回復の過程 健康と社会保障
専門分野	<ul style="list-style-type: none"> 救急症候・病態生理学 疾病救急医学 外傷救急医学 環境障害・急性中毒 臨地実習 <p>[シミュレーション・臨床実習及び救急用自動車同乗実習を含む]</p>



救命処置の様子(デモ)

第18回大阪病院学会で優秀演題に選ばれました。

平成27年11月15日(日)大阪市・グランキューブ大阪(大阪国際会議場)で「2025年大阪の医療提供体制への提言」を学会テーマとして開催されました。

当日は、309題の演題発表と(株)よしもとクリエイティブ・エージェンシー 間 寛平さんの特別講演や「地域包括ケアシステムのあるべき姿」をテーマとしたシンポジウムなどがあり、多くの医療機関関係者が集まった盛大な学会でした。はあとふるグループからも合計10題の演題発表を行い、島田病院 看護課 村口あやさんが優秀演題として受賞しました。



島田病院 看護課/村口あや

.....演題名.....
日勤残業を短縮するまでのプロセス
～問題解決型スキルで看護現場を変革する～

今回の発表は、看護師の日勤残業を短縮するまでの業務改善プロセスを発表しました。内容は、残業時間が発生する課題の分析を行い、ペアリングを行うことによって、業務の効率化につながった取り組みの報告です。優秀演題に選ばれた事をうれしく思うと同時に、これからもケアの質を向上させながら、働きやすい職場作りに取り組んでいきたいと思えます。

今学会での発表に関して、同僚をはじめ、多くのスタッフの方々に協力していただけたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

演題名	演者		
介護療養型医療施設から医療療養病棟への転換の経緯	八尾はあとふる病院	ケア支援課	小南千里
セラピストのリスク管理能力向上への取り組み	島田病院	リハビリテーション課	笑喜佐恵美
持ち味を活かすリハビリテーションケア	八尾はあとふる病院	リハビリテーション課	中島妙子
在宅復帰に向けた生活視点の生活リハビリ	介護老人保健施設 悠々亭	リハビリテーション課	奥藤和哉
細菌検査委託先の決定への取り組み	島田病院	検査課	中村知世
地域とつながる介護老人保健施設を目指して	介護老人保健施設 悠々亭	地域連携課	橋本知子
リンパマッサージがきっかけで療養行動が改善した症例	訪問看護ステーションハートパークはびきの		山本弥生
日勤残業を短縮するまでのプロセス	島田病院	看護課	村口あや
専門職の特性を生かした介護予防運動教室の取り組み	Eudynamics はびきのヴィゴラス		小田高史
高齢者施設での排泄ケアの現状	介護老人保健施設 悠々亭	看護課	田中千恵

平成27年 はあとふるグループ主催 教育・研修の報告

日時	テーマ	講師
4月1日～4月6日	新入職員研修	今年度、はあとふるグループに入職した職員を対象とした研修です。社会人として、ヘルスケア従事者として必要な知識を学びます。講師は全員、はあとふるグループの職員です。
4月25日	考課者研修	考課者を対象に外部講師による研修です。人事制度を理解し、育成面談に必要なスキルの向上を図ります。
5月16日	フォローアップ研修①	入職2年目職員の研修です。自分が勤務している現場での問題点を抽出し、対策を検討します。他にもアサーティブコミュニケーションやマネジメントについても学び、実務のスキルアップを図ります。
7月9日	羽曳野エリア医療安全研修	医療安全の基本・患者・部下・組織を守る医療安全を学びます。(医療機器・医薬品管理を含む)併せて、厚労省令100号医療事故調査制度についても学びます。
9月25日	八尾エリア医療安全研修	
7月11日	コミュニケーション研修①	社会人・医療従事者としての基本的なマナーと会話でのコミュニケーションを学びます。チームケアを実践するために必要な研修です。
7月18日	フォローアップ研修②	入職3～6年目職員の研修です。グループごとで職場の問題点を考え、意見交換を行い、解決策を導き出します。グループワークを行うことで、コミュニケーションの重要性についても学びます。
8月8日	目標設定研修	目標管理制度を理解し、育成面談のロールプレイングを行うとともに、面談に必要なスキルの向上を図ります。
5月28日	上期消防訓練	全職員を対象とした研修です。火災発生時に備えて昼間・夜間想定避難訓練・講習を行います。
9月3日	業務フロー伝達講習会	外部研修の中で、業務フロー図の本質を理解し実践した職員が、業務を「見える化」し、業務改善・業務革新・新規作成するための一ツールとして、院内で活用できるよう、知り得た情報の伝達を行います。
9月2日・9月9日	羽曳野エリア感染対策研修会	感染予防を目的とした研修会です。講師は感染管理認定看護師です。
9月30日	八尾エリア感染対策研修会	
9月10日	安全運転講習会	全職員を対象としており、運転時の危険察知や事故防止などを学び、送迎もサービスの一環としてより安全な運転を心掛けることを周知することを目的とした研修です。
9月24日	羽曳野エリア個人情報保護及びマイナンバー制度講習会	個人情報流出事件など、社会的な情報保護が求められる中、マイナンバー制度がスタートしました。はあとふるグループ内においても、改めて個人情報の大切さを学ぶ意味で研修会を開催しました。今回新たに始まったマイナンバー制度や個人情報保護法及び改正法について解説をして理解促進の場として多くの職員が学びました。
10月19日	八尾エリア個人情報保護及びマイナンバー制度講習会	
9月26日	フォローアップ研修③	サブリーダー以上の役職者を対象とした研修です。内部分析を行い、職場の問題点を抽出し、活躍の場を広げ、コーチングスキルの向上を図ります。また、業務フロー作成過程の技術を学びました。
10月17日	コミュニケーション研修②	コミュニケーション研修①の応用編です。基礎編を受けた職員のステップアップの場としての研修です。コミュニケーションについて深めたい職員が受講しています。
10月22日	認知症サポーター養成講座	はあとふるグループの全てのスタッフを対象に認知症の知識を深め、認知症サポーターとしての活動ができるようにしています。受講者はオレンジリングを身につけています。
10月24日・10月25日	リフレッシュアップ研修	今年度入職者した職員・上長推薦者を対象とした研修です。一つの目標に向かって、グループが達成できるように取り組むことで、目標達成のためのスキルを学びます。
11月14日	フォローアップ研修④	上長推薦者を対象とした研修です。明るく生き生きと働ける職場づくりのために必要なことを、自身を振り返り、感じて学びます。

第24回 はあとふる学会を開催しました。

—平成27年11月28日(日) LICはびきのホールMにて—

はあとふるグループの職員が1年に1度集まって、それぞれの研究・活動の成果を発表する学会です。今回のテーマは、1年前の学会で「育む～相互理解によるチーム力強化～」と掲げられました。私たちが提供するヘルスケアサービスは、チームで提供するものです。多職種がその専門性を持ち、チーム力が強化されるほど、良質のヘルスケアサービスに繋がるのだと考えています。理念で掲げている、Warm Heart(心)、Cool Head(知識)、Beautiful Hands(技術)をどのように育てているのかを振り返り、よい部分はスタンダードになるように、未完成的な部分は指摘し合い、よりよいものに育てていきたいという学会長である島田部長の思いから掲げられました。

当日は284名の職員が参加し、口述演題としてはこれまでのはあとふる学会では最多となる30の演題が発表されました。会場は活発な質問や意見が飛び交い、大いに盛り上がりを見せました。はあとふる学会も24回目となり、次回で四半世紀を迎えます。回を重ねる毎に、発表の内容が充実し、プレゼンテーション能力も高まり、同時に意見交換も活発に行われ、今回の「育む」という学会テーマの通り、はあとふる学会もまた育ってきていると実感します。



理事長 島田永和 学会長 リソース開発部 部長 島田永士 理事長賞を受賞した 西浦良治

今回、理事長賞を受賞した演題「回復期リハビリテーション病棟でレクリエーションをする意味～患者の心に栄養を～」は、入院中の患者さんへ離床を促すための座位時間確保を、「ただ座っているだけ」→「目的と楽しみを持って座る」へ変化させたいという介護士の視点の発表でした。回復期リハビリテーション病棟における介護士の役割を確立させるべきさを感じさせるものでした。学会長賞を受賞した「看護・セラピスト間の相互理解を求めて～膝前十字靭帯再建術後患者のポジショニングの勉強会を通した取り組み～」に関しては、学会テーマの主題・副題に沿った発表で、多職種間の相互理解と育みを感じられるものでした。金賞を受賞した「アメリカ研修で培った価値の抽出～私たちの「育み合い」の在り方の検討～」は、これまで9回実施しているアメリカ研修についてです。アメリカの医療・福祉を学び、それを私たちのヘルスケアサービスにどう反映できるのか。その価値を振り返った発表でした。どの発表も優越をつけ難い優れたもので、とても有意義な1日となりました。



- 「育」の上半分は「子」を逆さにした字。赤子が頭を下にして正常な姿で安らかに産ませるさま。
- 「育」の下の部分は、部首でいう「にくづき」です。生まれた子が肥(ひ)だちよく、肉がついて太ることをあらわします。
- 「育」には、子どもの出産から生育にいたるまでが、いのちの営みの中でとらえられています。

理事長賞	回復期リハビリテーション病棟でレクリエーションをする意味 ～患者の心に栄養を～ 八尾はあとふる病院/回復期リハビリテーション病棟 西浦 良治
学会長賞	看護・セラピスト間の相互理解を求めて ～膝前十字靭帯再建術後患者のポジショニングの勉強会を通した取り組み～ 島田病院/看護部 2階病棟・リハビリテーション課 川田 有佳子
金賞	アメリカ研修で培った価値の抽出 ～私たちの「育み合い」の在り方の検討～ 八尾はあとふる病院/リハビリテーション部・法人本部 元石 光裕
銀賞	ケアとしてリンパドレナージ普及に向けての取り組み ～症例を通しての活動報告～ 訪問看護ステーション ハートパークはびきの/看護部 山本 弥生
銅賞	必要な人に必要なケアを ～アウトカムデータから医療療養病棟の効果的な病床運用を考える～ 八尾はあとふる病院/医療療養病棟 源 夏野
銅賞	相互理解による部署間業務連携力の強化 島田病院/リソース開発部 診療情報管理室・制度対策部 ケア支援課 岡原 絵美
特別賞	適切な人事考課と目標設定を目指したリハビリテーション部の取り組み リハビリテーション部・法人本部 吉岡 豊城

島田病院リニューアル工事進捗状況のご報告

現在、島田病院のリニューアル工事が行われています。老人保健施設悠々亭の裏(南)側に新病院棟を移転新築する工事を1期工事、既存の病院を解体し、エントランスと疾病予防施設はびきのヴィゴラス棟を新築する工事を2期工事として進めています。その1期工事の竣工が今年5月に迫っています。今回はこの場を借りて、工事の進捗をお伝えしたいと思います。

これまでスタッフ駐車場として利用していた敷地に本格的に工事を着手したのは、本誌で工事スタートのご挨拶をした4月のことでした。

まずは、建物をしっかりと支えるための基礎工事からスタートしました。大型重機による地盤改良を行ったうえで、コンクリートを流し込み、堅く強い地盤ができあがります。着工から約5ヶ月かけて、建物を支える基礎がようやくできあがりました。



4月着工時の建築現場



鉄骨建方中の建築現場

9月7日に立柱式が執り行われ、無事に鉄骨建方が完了することを祈願し、いよいよ鉄骨工事が始まりました。みるみるうちに鉄骨が建てられ、建物の大きさを実感できるようになりました。多くの人が行き交う建物をしっかりと支えるように、1本1本丁寧に慎重に組み合わされていきます。その工事の様子を私たち職員はハラハラドキドキしながら見守っていましたが、現場作業員の方々は淡々と高所作業をこなしていたのが印象的でした。

鉄骨と鉄骨の間には、床コンクリートを受けるための下地材が張られ、重い医療機器を乗せてもびくともしない床が作られます。鉄骨が無事に全て建てられたあと、各階の床にコンク

リートを流す作業が行われ、全ての階の床が昨年できあがりました。

同時に、隣接する悠々亭の改修工事も始まっています。これまで、悠々亭1階にあった病院外来リハビリテーションルームと新病院を繋げるための大規模な工事が行われています。そのため、今は外来リハビリテーションの機能を病院4階へ移動して運用しています。新病院では、さらに広くなったリハビリテーションルームでケアの充実をはかります。



改修中のリハビリテーション訓練室

12月16日には建設現場で職員の見学会も行いました。まだ、太い柱だけが立っているだけで、各部屋の壁もない状態での見学でしたが、参加した職員は、想像を膨らませながら、オープンに向けてレイアウトや運用シミュレーションを行うなど、臨場感を持って具体的な準備段階に入る事ができました。

昨年末の12月25日には、鉄骨建方が完了したことに感謝し、この後も無事に建物が完成することを祈願するため、上棟式を執り行いました。1期リニューアルオープンを抑えた本年は、昨年末から取りかかっている外壁取付工事に加え、いよいよ内装工事が始まります。良質な医療が提供できるよう、どんな建物であるべきか、何度も何度も打合せを重ねてできあがった設計図を元に形作られる建物を見ながら、その建物を生かして使いこなし、地域に貢献できるよう、私たち職員一同準備を進めて参ります。

工事の進捗に関しては、Facebookでも発信しています。当院ホームページにリンクがありますので、ぜひご参照ください。

近隣住民の方や患者さま、利用者さま、またその家族さまには多大なご迷惑をおかけしておりますが、地域に必要な施設として、さらに成長するために必要な工事です。ご理解ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

新病院プロジェクトチーム



鉄骨建方完了時



完成予想パース

はあとふるグループ 使命

私たちは、
良質のヘルスケアサービスを
効率よく地域の方々に
提供し続けます

はあとふるグループ 理念

その人がその人らしく
自分の人生を全うすることを

知識
Cool Head 心 Warm Heart
Beautiful Hands 技術
で支援します

はあとふるグループの基本方針

1. 「確かな知識と技術」を追求します
2. 「心に届く」を追求します
3. 「安全」を追求します
4. 「信頼でつながるチーム」を追求します



はあとふるカフェ
Heartful Cafe

皆様にご好評の「有田修三ベースボール教室」2016年も開催!

島田病院を受診するスポーツ選手で最も多いのが10代の成長期の野球選手です。そこで、島田病院とはびきのヴィゴラスは、元プロ野球選手で現野球解説者の有田修三氏にご協力いただき、地域の選手や指導者、保護者を対象に障害予防とパフォーマンス向上を目的とした「有田修三ベースボール教室」を開催しています。2013年度から2014年度までに院内10回、院外2回の教室を開催し、合計388名にご参加いただいています。

教室の内容は、有田氏がパフォーマンス向上の技術指導、はびきのヴィゴラスのトレーナーが障害予防のストレッチやトレーニ

ング指導です。有田氏の技術指導は、選手個々の問題点を見極めて改善方法を分かり易く、そして情熱的に説明され、選手はフォームの改善を実感し、その後の練習でも継続して取り組んでいます。

2015年度は、バッティングフォームの連続写真の撮影や個別指導時間を長く設定した院内教室や練習現場で訪問指導する院外教室を開催し、参加者から好評を得ています。教室への参加希望などの詳細につきましては、はびきのヴィゴラスのホームページを参照ください。



有田修三氏による技術指導



はびきのヴィゴラス トレーナーによるストレッチ指導



はあとふる グループ

●医療法人(財団)永成会

島田病院 ☎072-953-1001
Eudynamics はびきのヴィゴラス ☎072-953-1007
介護老人保健施設 悠々亭 ☎072-953-1002
在宅介護支援センター 悠々亭 ☎072-953-1003
介護サービスセンター ゆうゆう亭 ☎072-953-5514
〒583-0875 大阪府羽曳野市榎山100-1

ヘルパーステーション 悠々亭 ☎072-953-1062
訪問看護ステーション ハートパークはびきの ☎072-953-1004
〒583-0883 大阪府羽曳野市向野3-96-7

八尾はあとふる病院 ☎072-999-0725
〒581-0818 大阪府八尾市美園町2-18-1
介護サービスセンター はあとふる ☎072-999-8126
〒581-0815 大阪府八尾市宮町5-6-22

●社会福祉法人 はあとふる

ゆうゆうハウス 通所介護 サービス付き高齢者向け住宅 ☎072-931-1616
〒583-0875 大阪府羽曳野市榎山96-10